

令和7年度事業報告

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

令和7年度は、我が国の人口減少と少子高齢化が進展し、経済情勢は物価の高騰が著しい年となりました。センター事業を取り巻く環境は、定年延長化により民間で就労を希望する層が増えるなかで当センター会員数は微増、令和6年度に施行されたフリーランス法の新契約へ、一部契約について移行となり法改正に対応しました。

このような状況の中で、高齢者が地域の担い手として、健康で生きがいをもって生活し、活力ある地域社会を構築できるよう高齢者に活躍の場を提供してまいりました。

当該年度は、基本目標とした、令和6年度から令和10年度を期間とする、事業推進計画の2年目となりました。

事業の実施においては、会員の増強、就業機会の拡大、安全・適正就業の推進など多くの課題に取り組み、会員、役職員が力を合わせ、各事業を推進しました。

事業実績としては、請負による契約金額が、148,939,146円（前年比104.8%）、シルバー派遣事業での契約金額は、21,152,758円（前年比139.9%）という結果になりました。

結びに市、県をはじめ、多くの関係者、センターをご利用いただいたお客様のご支援、ご協力に感謝申し上げます、令和7年度の事業報告とさせていただきます。

1 会員の増強

お客様のさまざまな受注に対応し、センター事業を維持、持続的に発展させるため、会員増強を目的に各種普及啓発活動を実施しました。

(1) 普及啓発

10月はあいあいまつり、11月は日高市民まつりに参加し、来場の市民の方々にセンターPR活動やチラシ配布を行いました。

除草、清掃のボランティア活動を5月と11月に開催し、延べ121名の会員が参加し市内の美化活動を通してセンターのPRを行うとともに会員の入会促進等につながるポイントカード制度の定着促進に努めました。

また、市広報紙「広報ひだか」へ会員募集の記事の掲載、ホームページ等を活用した広報活動を実施し、会員の増強に努めました。

(2) 入会相談

働く意欲のある60歳以上の高齢者を対象にして、毎月第3木曜日を基本に入会説明会を開催しました。

入会登録に関しては、役員が入会希望者の個別面談を行い、希望職種、健康状態等を確認し、センターの趣旨に賛同いただいた64名の方が理事会の承認を得て、新たに入会となりました。

また、個別就業相談を行い、センターの会員として早期に就業が開始できるよう相談、支援を行いました。

2 就業機会の拡大

定年延長化が社会に定着し、登録会員の高齢化が進み、令和7年度末の会員平均年齢は76.1歳となりました。会員の就業ニーズの把握に努め、無理なく持続的に就業できる短時間就業や小口就業の定着促進に努めました。

一つの仕事で多くの会員を必要とする場面では、SMS（ショートメッセージサービス）を活用し、多くの会員へ効率的に就業機会が提供できるよう努めました。

(1) 研修講習事業

研修講習事業としては、今後のデジタル化への移行を踏まえ、会員向けのスマートフォン教室を開催し、延べ20名が受講しました。

また、就業に関してお客様の要望や依頼に対応できるよう正副班長を中心に適正就業に関する情報提供等を行いました。

(2) 未就業会員対策

未就業会員対策として、毎月2回会員のニーズを踏まえた未就業相談の場を設け、早期に就業が開始できるよう努めるとともに、SMS（ショートメッセージサービス）により幅広く未就業会員への呼びかけを行いました。

(3) シルバー派遣事業

シルバー派遣事業は、「高齢者活用・現役世代サポート事業」として公益財団法人いきいき埼玉と連携し、その取り組みを強化しました。

3 安全・適正就業の推進

安全・適正就業は、事故やクレームの内容を分析し、各班との連携を図り、次のとおり取り組みを実施しました。

(1) 安全就業の推進

安全就業は、安全・適正就業委員会が中心になって委員会の開催、安全巡回パトロールを8月から12月にかけて6回実施し、計31か所を巡回しました。

巡回パトロールによる現地確認で、高所作業における転落事故防止対策、刈払による飛散事故防止対策、交通事故防止対策、夏場の熱中症対策として現地での飲料の配布、屋外就業対策、タイヤ止めの励行などの安全就業の徹底を図りました。

安全意識の高揚を図るため安全就業スローガンを募集し、優秀作品を掲示することで事故防止活動の促進が図れました。

いきいき埼玉の依頼により、高麗の郷等を会場に就業安全評価測定会を開催したところ、116名の会員の参加があり会員の安全対策が図れました。

(2) 適正就業の推進

適正就業に関しては、会員の就業形態の確認、契約内容の点検を行い、埼玉県シルバー人材センター連合のアドバイスも受けつつ適正就業ガイドラインに沿った運営に努めました。

フリーランス新法施行に伴う新契約方式については、個人・家庭、民間継続に係る一部の契約を新契約に移行しました。

(3) 健康推進対策

健康で元気にいつまでも働けることを目的に会員の健康作りを推進し、本年度は、夏期の熱中予防対策について、総会を利用して講演会を実施しました。

会報誌パラダイスを利用し、健康に関する情報提供を行いました。

4 イメージアップ

シルバー人材センターのイメージアップとして、就業以外に、ボランティア活動、市民まつり参加、あいあいまつり参加、サークル活動など通じて、センター会員の多様な活動ができることをPRできました。

スマホ教室を開催し、インターネットを活用したデジタル化を推進し、会員の就業活動にも活用できるよう準備しました。

これらの活動を通じてセンターの魅力や認知度を高め、新たな会員の入会促進や就業機会の確保を図りました。

5 組織・運営体制の整備

理事会、三役会を中心に各部会（広報・事業部会、総務・財政部会）と各委員会（安全・適正就業委員会、広報編集委員会）を適宜開催しました。

公益社団法人として、必要な組織・運営体制について引き続き検討、整備を实

施しました。

6 財政基盤の強化

収支相償を遵守しつつ、予算執行に当たっては、経常経費抑制や事務の効率化によるコスト削減に努めるとともに、補助制度に見合った適正な支出に努め、将来の公益充実資金は目的に沿って計画的に積み立てるなど、財政基盤の強化に努めました。

7 事務局体制の効率化と充実

事務局職員の資質向上のためオンライン研修会等への参加や定期的なミーティング、近隣5市センターとの情報交換会を行い、情報の共有化を進め、法律改正等多様化する事務に対し、効率的な事務処理に努めました。

事務局内の役割分担の見直しや新たな事務の進め方を検討するなど事務局体制の強化と充実に努めました。